

校内体制 教職員相互の日常的な情報交換を行う工夫をする

教職20年目を迎えるA教諭は、B組のCさんのことで悩んでいた。彼は、A教諭にひどく反抗的であった。

A教諭の指導中に、わざと大あくびをする。お喋りや立ち歩きで授業をかき乱す。注意するとふてくされた態度をとり、フラリと教室を抜けることもあった。最近ではCさんに同調する生徒も出てきて、A教諭はB組の授業が苦痛になった。

クラス担任の若いD教諭に様子を聞くと、「僕の授業のときには、まあまあやっていますよ。」という返事であった。

次の時間に授業に行くと、Cさんは「なんで、Dにチクった。」と、更に反抗的な態度になった。学年主任でもあるA教諭は、副校長や他の教諭に相談することもはばかられ、日々苦悩を濃くしていった。

そんな最中、B組の保護者数名が、「このままでは受験に支障がでる。もっと指導力のある先生に替えて欲しい。」と校長に苦情を言いに来るまでになった。



これは、ベテランになればなるほど窮状を申し出にくくなり、結果として保護者や生徒の信頼を失った例です。「人に相談したり頼ったりするのも能力のうち」といったことを考えることも必要です。

教職員相互の情報交換も、要（かなめ）は担任です。家庭とのパイプをもつ担任に、情報を集めることが大切です。

担任への伝え方の工夫は

担任への伝え方のタイプとして、次の四つが考えられます。

- ①**外罰タイプ**…「先生のクラスのC君、授業態度が悪くて困ります。どんな指導してるのですか。」と、暗に担任の指導を批判するタイプ。
- ②**発散タイプ**…「先生のクラス、元気ですね。彼らは何を食べているのでしょうか。」と、ただ不満を皮肉にして吐き出すだけのタイプ。
- ③**調査タイプ**…「C君の家庭の状況はどうなっているんですか？」と、一方的に自分の知りたいことだけを質問するタイプ。
- ④**相談タイプ**…「先生、ちょっと相談があるのですが。C君の授業態度のことで悩んでいるのですが。」と、自己開示するタイプ。

担任としての受けとめ方は

他の教師から自分のクラスのことを言われるときには、つい身構えてしまいます。しかし、そんなときこそ、「ありがとうございます。もう少し様子を聞かせてください。」といった積極的な聞き方を心がけることも必要です。

学校は一つのチームです。それぞれが个性的に自分の持ち味を出しながら、なおかつ“あうん”の呼吸で協力しあうチームプレーができることが望まれます。そのためには、日ごろからよい人間関係を作っておくと、何かが起きたときに動じないものです。